

〈隷書〉

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

山本飛雲先生書

初月 簷窗未覺  
 涼入 簾先知

〈行書〉

吉田成美先生書

初月 簷窗未覺  
 涼入 簾先知

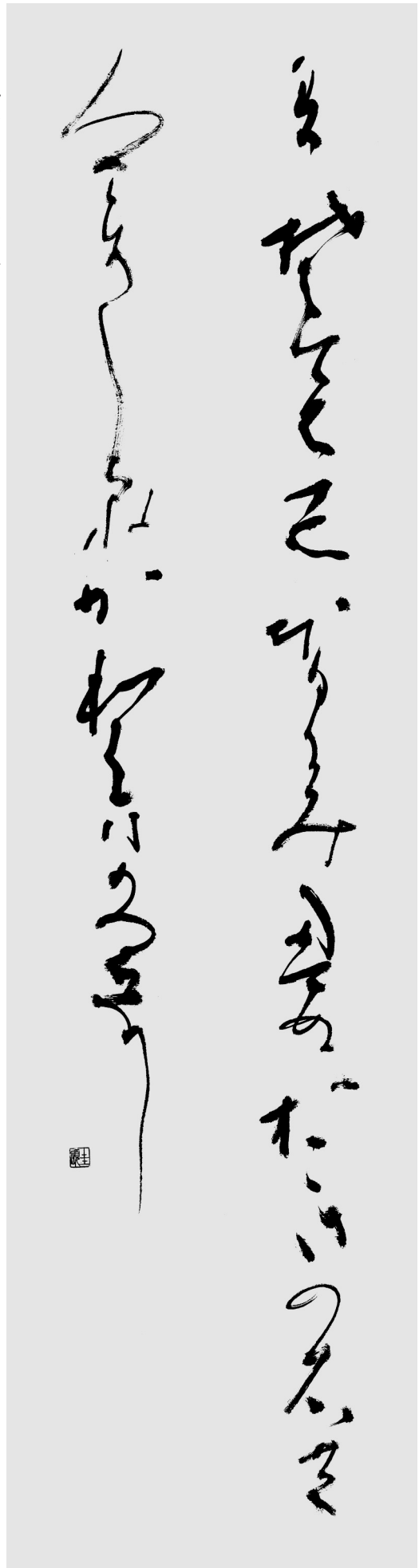
□ 初月簷しよげつひさしに挂かかり窓未いまだ覺さとらず、新涼しんりやうま牖まどに入いつて簾先てんまづ知しる。（鄭清之）

三日月の影は軒にかかっているが窓では見えぬ、新秋の涼気は窓から入って竹席がまずひえた。

次号予告「知我心相憶」

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ 王可楚わかそ楚者は 志本しほ日尔ひにみ盈えぬ おきの石農の 人こそしらね かわく万裳まもなし △百人一首九十二▽

わか袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね かわくまもなし

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南岳先生臨

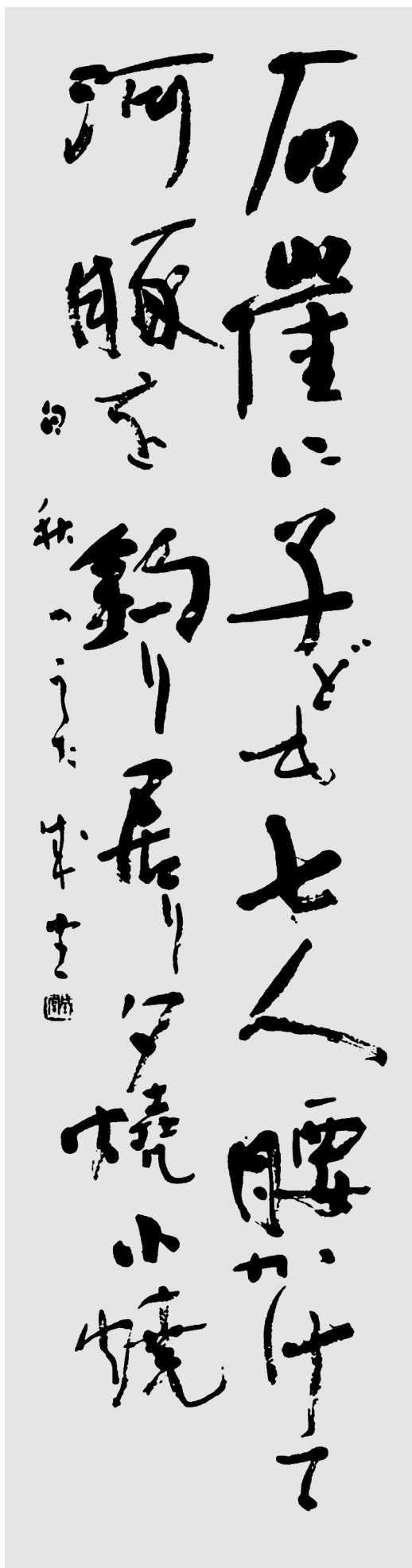


蜀素帖

凌霄耻屈盤種々出枝葉牽連上松端

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書



□ 北原白秋のうた 石崖に 子ども七人腰かけて 河豚を釣り居り 夕焼小焼

条幅随意（半折½横のみ）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



清原大龍先生書

□ 「振蘇」（しんそ）

よみがえって動き出すこと

（淮南子より）

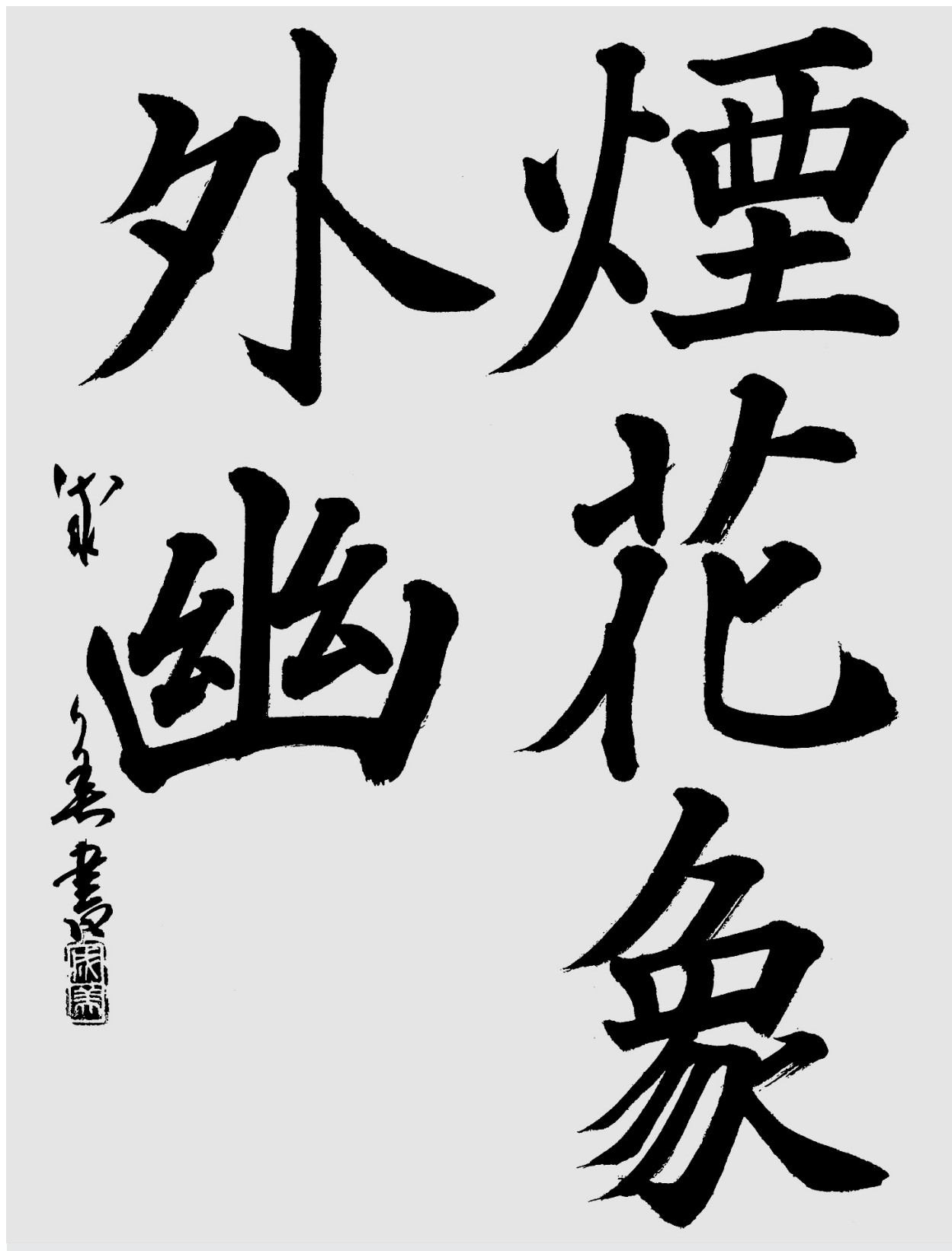
人生思わぬ困難に遭遇することがある。不死鳥のようにとは言わないまでも自分なりに、蘇って新しい気持ちで歩きたいものです。

△手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。▽

半折作品は各課目ごとに横½に一枚ずつたんで提出ください。

今月より条幅随意（半折½）漢字・詩文書の手本は、各月 交互の掲載となります。

(この課題で書体は自由。但、この課題は一人一点とする)



□ 煙花象外に幽かなり(唐・孫述)  
立ちこめる美しいもやは、俗塵を離れて、ひっそりとしたたたずまいを見せている。

次号予告「小處不滲漏」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



□ 煙花象外に幽かなり(唐・孫述)  
立ちこめる美しいもやは、俗塵を離れて、ひっそりとしたたたずまいを見せている。

次号予告「小處不滲漏」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

今月より半紙随意の漢字・詩文書の手本は、各月 交互の掲載となります



△詩文書▽

鬼崎博子の詩

いちめんの秋櫻

やさしいいろのハーモニー

川上和子先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課題は一人一点とする）



△臨書▽ 筆の握りを柔らかくして、力まず急がず、ゆったりとした気持ちで書こう。

「秋花起絳烟」

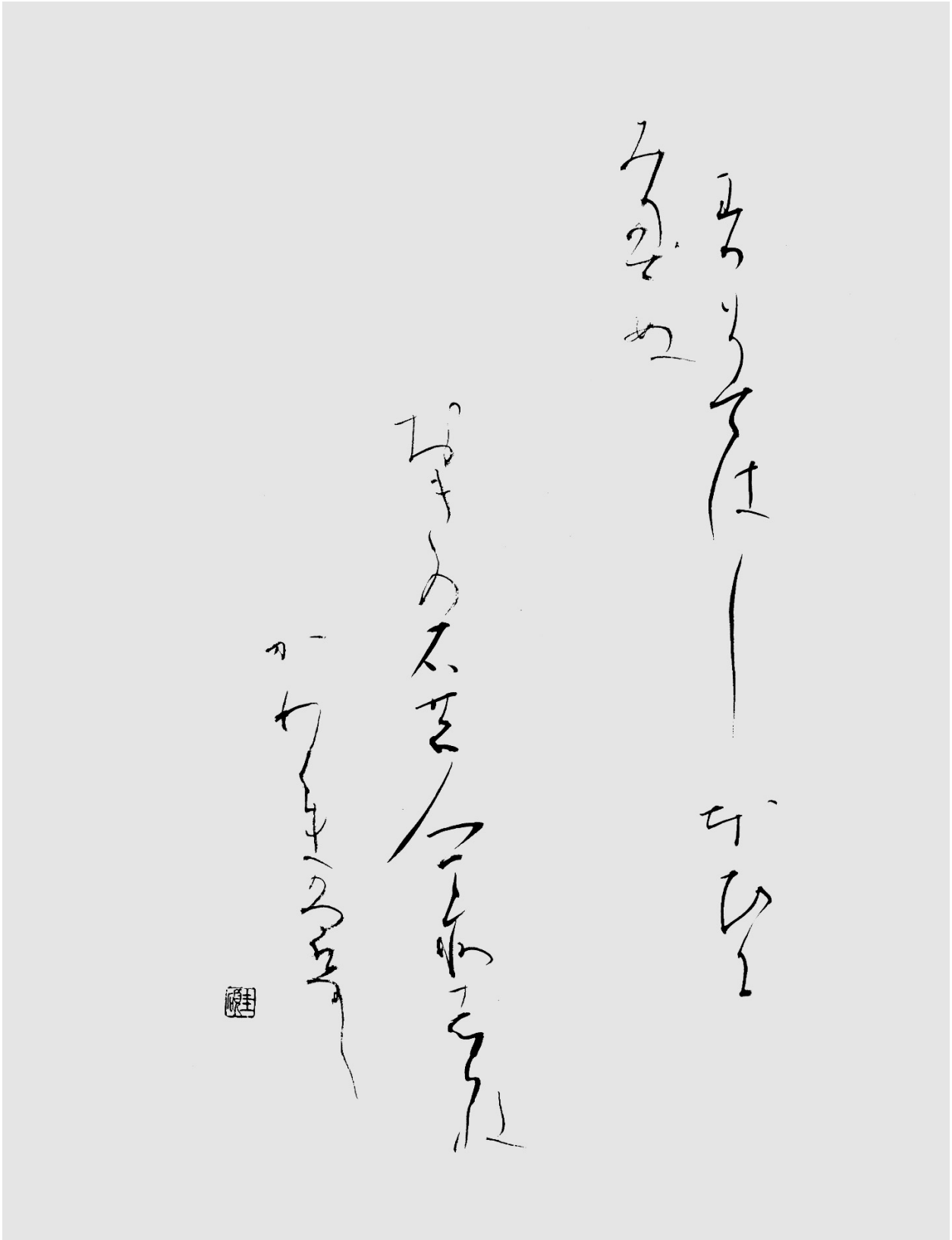
清原大龍先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

王可楚<sup>わかそ</sup>てはし本<sup>ほん</sup>ひるみ<sup>み</sup>えぬおきの石<sup>いしの</sup>農<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>こそ<sup>そ</sup>しらねかわくま<sup>かも</sup>裳<sup>も</sup>なし

△百人一首九十二▽



わか袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね かわくまもなし △百人一首九十二▽

舟尾圭碩先生書



(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

今月より半紙随意の実用書・手紙文の手本は、各月 交互の掲載となります

△手紙文▽

先日 御会の活動の様子を拝見して私もお仲間に加えていただきたく筆をとりました つきましては  
入会方法 入会にかかわる費用の他 詳しい活動内容について教えて頂きたいお願い申し上げます

直子

先日御会の活動の様子を拝見して  
私もお仲間に加えていただきたく筆を  
とりましたつきましては入会方法入会に  
かかわる費用の他詳しい活動内容につ  
いて教えて頂きたいお願い申し上げます

直子

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

# 書譜

朝々めっきり涼しくなりました。度々  
のお便りにご返事も差しあげず、心苦  
しく思っております。母の入院やら、引越し  
のこともなどで大わらわでした。でも、どうやら  
問題も片付いそ、ほっとしておきます。  
年末年始のお休みには帰省がきつとの  
こと。お会いできるかと今から胸が  
ワクワクしています。  
では、その日を楽しみに。

か——こ

野のある便箋に書いてみよう。

△26 cm × 18 cm▽

紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

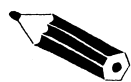
小 畠 秋 聲 先 生 書

一般硬筆部参考手本〈B〉 —10月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

						時間を早めるのではなく、時間を速める。
						人間は時の流れを加速し続けた。飛行
						機やパソコン、便利さとは速さのこと。
						縄文時代 비해、時間は四十倍も速い。
						これが現代人のストレスの原因だ。
	段 級					
	氏 名					

小 畠 秋 聲 先 生 書



当月のかきかたドリル

(形や注意する点に気をつけてゆくり書こう！)

ようねん	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ
小学1年	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青
小学2年	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
小学3年	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当
小学4年	落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	落	落
小学5年	持	持	持	持	持	持	持	持	持	持	持	持	持
小学6年	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷	傷
中学	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑

一般の方も是非チャレンジしてみてください。

坂元紫香先生書

知り合い

小学4年

水の玉

小学3年

アルバム

小学2年

おむぎ

ようねん・小学1年

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

理想の実現

中学2・3年

挑戦者

中学1年

あけびの実

小学6年

大切な手紙

小学5年

坂元紫香先生書

△条幅¼ || 四尺画仙紙半折¼ : 68cm × 17.5cm ▽

□「ハライ」と「トメ」のちがいに気をつけて書きましょう。だく点もていねいに。



小学二年

次号予告「ユネスコ」

□「む」の「むすび」は、筆の軸だけをまわさないように気をつけて、のびやかに書きましょう。



ようねん・小学一年

次号予告「いぬ」

坂元紫香先生書

□「知」は部分の組み立て方に注意し、「る」は横結びの筆使いをたしかめて書こう。



小学四年

次号予告「進化」

□始筆のはいり方と線の方向に注意し、中心とバランスに気をつけ、明るく伸びやかに書こう。



小学三年

次号予告「文明」

吉田成美先生書

小学五年

手紙

次号予告「平和な心」

□「手」は二・三画目の横画の長さに注意し、「紙」は最終画を長く、ハネをしっかり書きましょう。

小学六年

あけび  
の実

次号予告「伝統の美」

□平仮名は大きさをそろえ、曲線的に。「実」は、や、大きく、左右の払いを伸び伸びと。

秋永春霞先生書

中学一年

挑戦

次号予告「文化遺産」

□点画の連続と筆脈、筆圧の変化に気をつけ、リズムに乗った動きのある作品にしよう。

中学二・三年

理想の  
実現

次号予告「豊かな自然」(行書)

□筆の穂先をつかって、リズムにメリハリをつけ、ゆったりとした気持ちで書こう。

吉田成美先生書

段級									
氏名									
ん きて い き ま した。 き い っ ぱ い の な が を く じ ら は 青 い 空									

小学一年

段級									
氏名									
ん そ く ろん ど っ っ か い え									

ようねん (※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。)

はねる (おお) ひとめる  
 まま 青 青  
 だててよせいせんにつける  
 まげろ  
 加 空 空  
 (そと)



級	段	氏名	明る、光が顔に当たって目が赤くなりました。ちやうどは暑、ちやうど寒い感じがしました。
---	---	----	--

小学三年

級	段	氏名	「きみ、お手紙が来るのを、よつとみてあげようと思います。」
---	---	----	-------------------------------

小学二年

①立てよこせにつける  
 ②とめる  
 ③はねる  
 ④上のとせんより  
 ⑤ながい  
 ⑥とめる  
 ⑦平来  
 ⑧  
 ⑨  
 ⑩  
 ⑪  
 ⑫  
 ⑬  
 ⑭  
 ⑮  
 ⑯  
 ⑰  
 ⑱  
 ⑲  
 ⑳  
 ㉑  
 ㉒  
 ㉓  
 ㉔  
 ㉕  
 ㉖  
 ㉗  
 ㉘  
 ㉙  
 ㉚  
 ㉛  
 ㉜  
 ㉝  
 ㉞  
 ㉟  
 ㊱  
 ㊲  
 ㊳  
 ㊴  
 ㊵  
 ㊶  
 ㊷  
 ㊸  
 ㊹  
 ㊺  
 ㊻  
 ㊼  
 ㊽  
 ㊾  
 ㊿

小学四年

兵十は火なわしゅうをば	
たりと取り落としてました。	
青いけむりがまじった口	
から細く出ていきました。	
段 級	氏 名

①と丘はつける  
②つき出ない③側をおける  
「F F F 丘兵」 「F F F 取」 「サ サ 落

兵十(ひょうじゅう)

小学五年

第二のおそろし敵が近づい	
たのを感じると残りの力をか	
りしほってぐっと長い首を持	
ち上げました。そしていさん	
を正面からにらみつけました。	
段 級	氏 名

④はねる⑤つき出ない  
「まっすぐ下におろす」  
⑥首南敵(むね) ⑦肩 ⑧威威感  
⑨卓をおささない  
⑩左にはねる

小 島 秋 聲 先 生 書

坂 元 樂 香 先 生 書

小学六年

自分の作品が「理解されがたい」と	
に「けん治は傷ついた。次に出すつ	
もりて「準備を整えていた詩集も、	
出すのをやめた。農業に対する考	
え方にも「変化が起こつていた。	
段級	
氏名	

「はねる」①平につまみ出ない  
 「長めに書く」②はねる  
 「はねる」③はねる  
 角解 解 解 解  
 仁 作 恒 恒 恒 傷  
 仁 作 伊 伊 伊 備 備

共通語の普及により「異なる地域	
の人々が円滑に交流できるように	
なつた。「いっぽう、地域に深く根を	
下ろし、その土地の文化や風土をこ	
まやかに映し出すのが「方言である。	
段級	
氏名	

「ナナ並並普」ノ乃及  
 イ江河河河滑  
 (カ)

小 島 秋 聲 先 生 書